

1 題材名 日本の技と心を受け継いで

2 本題材の目標

- (1) 伝統工芸品の造形的な特徴や技法などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(知識及び技能)
- (2) つくる人や使う人の思いや、時代背景について考えるなどして、伝統工芸品についての見方や感じ方を深める。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさを感じ取り、作者の意図や工夫、文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 伝統工芸品の造形的な特徴や技法などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	鑑 つくる人や使う人の思いや、時代背景について考えるなどして、伝統工芸品についての見方や感じ方を深めている。	態鑑 人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさを主体的に感じ取り、作者の意図や工夫、文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領では、第2学年及び第3学年 2内容 B鑑賞(1)イ(イ)で「日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。」と示されている。本題材では、より身近に感じられるように地域の伝統工芸品を鑑賞する活動を通して、人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさを感じ取り、作者の意図や工夫、文化などの見方や感じ方を深めることをねらいとしている。そこで、グループ活動において、様々な意見を交流しながら鑑賞することで、新たな見方や感じ方を広げ、伝統工芸品の造形的な特徴や技法などを基に、全体のイメージや作風を捉えることができるようにする。また、伝統工芸品は、単なる商品ではなく、文化や歴史を伝える貴重な財産であることを理解できるようにする。

(2) 生徒観

日本の美術文化に関する意識調査 令和7年*月*日実施 *人調べ)

・日本の美術作品に興味がありますか。	はい *人 いいえ *人
・伝統工芸品にはどんなものがあるか知っていますか。	はい *人 いいえ *人
・家や身近な場所に伝統工芸品はありますか。	ある *人 ない *人 わからない *人

本学級の生徒は、これまで屏風の鑑賞を通して、日本の美術文化を考えるなどして日本美術の見方や感じ方を学習している。しかし、美術や芸術が身近にあるものとして感じられることが少なく、特に伝統工芸品への知識や理解不足が顕著であり、生活や社会の中の美術や美術文化に気付いたり、結び付けたりして考える力が不十分である。

(3) 指導観

伝統工芸品を身近に感じられない生徒が多いことから、工芸品とはどんなものかを確認し、クイズやゲームなどを取り入れながら興味、関心を引き出す。また、身近な伝統工芸品として、結城紬の着物と反物を鑑賞する。大量生産品と比較鑑賞しながら話し合うなど、主体的、対話的な活動により、自分では気付かなかった新しい意味や価値に気付けるようにする。無形文化遺産である結城紬を知り、実際に触れる経験をすることで、身近な地域を新たな視点で見つめ直すきっかけとしていく。また、完成までに手間暇がかかるのに、受け継がれてきたのはなぜかを考えることで、終末のまとめと振り返りにつなげていく。

5 題材の指導計画（1時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1 本時	1 本時の学習課題をつかむ。 目標：受け継がれてきた技や心について考え、伝統工芸品の見方や感じ方を深めることができる。 課題 伝統工芸品には、技や心が受け継がれています。その受け継がれた思いを、どのように工夫して表しているだろう。 2 個人で考える。 ・伝統工芸品やそれらをつくる人や技についてクイズを交えながら紹介していく。 3 グループで考える。 ・工芸品写真セットを配布し、グループで問題について考える。 ① 茨城県でいくつあるか。 ② それはどんなものだろうか。 ・班ごとに考えを発表する。 ・答え合わせをする。 3 品目、笠間焼、真壁石灯籠、結城紬 ・結城紬の反物を鑑賞し、どうやってつくるのか、作業工程を話し合ってみる。 4 作業工程は動画を見て確認する。 5 大量生産品と比較して考える。 ・伝統工芸品は、完成までに手間暇がかかるのに、受け継がれてきたのはなぜだろうか。 6 本時の学習のまとめをする。 まとめ 伝統工芸品には、生活をよりよくしようと考えた人々の知恵や思いが受け継がれている。その土地の材料を生かし、機能と美しさを両立させた形や色彩の工夫から、美術が生活を彩る大切な役割を果たしていることに気付いた。 7 本時を振り返る。 ・本時の学びをワークシートに記入する。				・物のない時代に人々はどうのようにして生活に必要なものを手に入れたのかイメージする。 ・技を受け継いできた職人について紹介する。 ・具体的な伝統工芸品について紹介し生活との結び付きについてイメージする。 知：伝統工芸品の造形的な特徴や技法などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかについて見取り、全体が捉えづらい生徒には、具体的な伝統工芸品について紹介し生活との結び付きについてイメージできるようにする。【活動の様子、発言の内容】 鑑：つくる人や使う人の思い、時代背景について考えるなどして美意識を高め、伝統工芸品についての見方や感じ方を深めているかについて見取り、話し合いのきっかけがつかめない生徒には、昔の生活などを具体的に考えるように伝え、会話の手助けを行う。 【ワークシート、発言の内容】 ○ 態鑑：人の手による技の素晴らしさや工芸作品の美しさを感じ取り、作者の意図や工夫、文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかについて見取り、身近な事象と絡めてイメージしやすいよう助言する。 【ワークシート・活動の様子】 ・学習内容を振り返りながら生徒からまとめの言葉が出るように「伝統工芸品には、どのような思いが受け継がれ、工夫されていたか」と発問し、まとめる。 ・数名の振り返りを紹介し、多様な視点に気付けるようにする。
		<授業外：題材が終了後>	◎	◎	◎	知：【ワークシート】 鑑：【ワークシート】 ◎ 態鑑：【ワークシート】